

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2370400869		
法人名	株式会社 エイム		
事業所名	グループホーム清里/2階		
所在地	名古屋市中区砂原町 418番地		
自己評価作成日	平成29年12月30日	評価結果市町村受理日	平成30年2月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=2370400869-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの入居者の微妙な表情や変化に気づくことができるよう、毎日の生活を大切にしています。また、家庭的な雰囲気の中で自分らしく過ごしていただきホームが居心地のいい場所として提供できるよう努力しています。
施設の前には、公園があり春にはお花見・秋には紅葉を楽しむことができ、入所者の方には散歩で季節を感じていただくことができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者への日常的な支援については、ユニット毎に職員間で検討しながら支援が行われている。ホームには各ユニットに基本夜勤を行わないチーフを配置しており、家族との面談や要望等の把握と対応や利用者の状況に合わせた職員へのフォロー等が行われている。法人が掲げている「アットホームな介護」を目指しながら、家庭的な雰囲気をつくり、利用者の意向に合わせた支援が行われている。ホームでは、開設以来、多くの利用者がホームで最期を迎えており、最期まで過ごすことができるような支援が行われている。地域の方とも前向きな交流が行われており、地域の消防団とは災害に関する協力関係が築かれている。また、近隣にあるグループホームとの交流に機会がつけられており、合同で職員研修が行われる等、相互に交流を深めながら職員の資質向上に向けた取り組みが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	・フロア。玄関、スタッフルーム等に掲示し日頃から目に触れるようにしている。 ・朝の申し送り時全員で唱和する事により、理念を意識して日々の業務に取り組んでいる。	法人の理念に基づくホーム独自の理念を掲げており、毎日の朝礼時に理念の唱和を行い、理念に基づく支援に取り組んでいる。また、職員で個人目標を立てながら、理念に実践につながる取り組みが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	・地域の祭りや行事に積極的に参加している。 ・近くの保育園との交流を行っている。	地域で行われている行事の際には、ホームから多くの利用者に参加しており、地域の方との交流に取り組んでいる。地域の消防団との交流が行われており、避難訓練や救急救命等に関する協力関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	・運営推進会議を通して、自治会や民生委員の方に認知症の人の理解や関わり方を伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	・利用者の現況や、取り組み、行事等を報告し会議参加者の方の意見や指導をを日々の業務に活かしている。	会議の際には、薬剤師の方や消防団長等、様々な分野の方の出席が得られており、会議を通じてホームの運営に反映されるような取り組みが行われている。また、会議を通じた勉強会等の取り組みも行われている。	運営推進会議については、家族の参加が少ない状況が続いている。ホームからの継続した出席への働きかけに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	・支援センターの方には運営推進会議に参加していただき、ホームでの取り組みを伝え役所には清里便りをお渡ししている。	ホームでは生活保護の方の受け入れが行われており、区の担当部署へホーム便りを届ける等の情報交換が行われている。また、地域包括支援センターが行っている担当者会議に参加、協力する取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	・玄関の施錠は夜間のみ、日中は施錠をしていない。 ・利用者自身に危険が及ぶ場合、どう対応すればよいかをミーティングで話し合い、拘束をしない方法を検討している。	身体拘束を行わない方針のもと、日中は玄関やホーム内に施錠を行わないように対応しており、職員間での見守りが行われている。また、毎月のミーティングの中で勉強会を行っており、職員の振り返りにつなげる取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	・勉強会や研修で虐待について学び考える機会を作るようにしている。 ・言葉の虐待等意識しないで使ってしまう事がないよう、スタッフ間でお互いに注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	・一部のスタッフは勉強会や研修を通じて制度について学ぶ機会がある。利用者の中には成年後見人制度を活用しているかたもいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	・契約時に口頭による説明を行い、重要事項説明書を用意して補足している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	・普段よりご家族が話しやすい関係を築くよう心掛けており、面会時に現況を伝え要望があれば伺うようにしている。	独自の取り組みとして、管理者の他にも各ユニット毎にチーフを配置することで、家族からの要望等に柔軟に対応することができる体制がとられている。また、年4回のホーム便りには、利用者の様子を写した写真を添えて発送している。	ホームで開催している行事に家族にも案内を行っているが、家族の参加が得られていない現状がある。行事に参加してもらうことで、家族との交流の機会が増えることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	・ミーティングで意見を言える環境づくりに努めている。 ・普段から管理者が個別で声掛けをし話をする機会を設けており、話をしやすい雰囲気を中心掛けている。	毎月のユニット会議を通じて出された意見等を各ユニットのチーフを通じて管理者に報告されている。法人からも職員が毎日ホームに訪問しており、要望等に柔軟に対応している。年2回の管理者による個別面談が行われており、職員の把握に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	・勤務時間や個々の勤務形態の希望を定期的に確認し スタッフより話を聞けるように心掛けている。 ・給料の見直しも少しずつ行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	・外部への研修の機会を設け、施設に持ち帰りミーティングで伝えるようにし、情報を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	・月に一度、近隣のグループホームが集まり勉強会や情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	・入居前の様子を把握し、ホームでの生活に早く慣れて頂けるよう心掛けている。 ・日常の会話により要望・希望を聞き出すように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	・入居前よりご家族の困っている事や要望を聞き取りし、入居後も常に状況報告や連絡を密にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	・入居後は利用者様を知る(必要な支援は何か？希望は?)事から始め、ホームでの生活に馴染み安心して生活を送って頂けるよう連絡帳やミーティングでスタッフ間が情報交換をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	・一緒に調理したり、スタッフが教えて頂くこともある。 ・利用者の行きたいところ、やりたい事をスタッフと一緒に楽しむ環境作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	・面会に来て頂きやすい雰囲気づくりを心掛けている。 ・ご家族の思いも聞き利用者にとってより良い生活が送れるよう、時にはご家族に協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	・希望があれば馴染みの病院やお店に行く。 ・友人・知人への手紙の代筆や電話などをし、関係が続けられるよう支援している。	徐々に困難にはなっているが、利用者により入居前からの関係の方との交流が行われたり、手紙等を通じた交流も行われている。また、家族との食事や買い物を通じた外出の他にも墓参りや法事等でも外出しており、親族との交流が行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	・利用者同士の関係が上手くいくよう、間に入り会話作りの支援をしている。 ・必要以上に利用者同士の間に入らず見守りもする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	・他所への住み替えがある場合はケアの工夫や情報を提供する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・センター方式の『心身の情報シート』を全スタッフが記入することで 利用者の思いを汲み取るように努めている。 ・日々の会話の中から希望や要望を聞きスタッフ間で情報を共有している。	ユニットの職員全員で利用者の把握に取り組んでおり、職員が把握した情報は毎月のユニット会議でも話し合わせ、意向等が支援につながるよう取り組んでいる。また、センター方式を通じたアセスメントの取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	・入居前にご家族に情報シートを記入して頂き ホームでの生活に役立てるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	・定期的に全スタッフが情報シートを作成して心身状態の変化を共有しミーティングで話しあっている。 ・利用者の出来る能力を生かし、出来ない部分を手伝うように意識している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	・スタッフ全員から集めた情報を元にケアプランを作成している。 ・利用者に変化があればプランの見直しを行っている。	介護計画は6か月毎に見直されているが、変化に合わせた見直しも行われている。3か月毎に実施しているモニタリングの際には、計画作成担当者を中心に職員全員での実施が行われており、利用者の状態等の変化に合わせた計画の見直しが行われている。	介護計画に合わせた実践状況を把握しやすいように、日常的にチェックを行う取り組みや記録方法等、ホームの継続した取り組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	・個別の介護記録に日々の様子を分かりやすく記入し、スタッフが個別に利用者に関わった事を記録する努力をしている。 ・ケアマネが記録を確認し、プランにいかしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	・ご家族に代わり、病院受診の付き添い等ニーズに合わせた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	・近くのコンビニ、喫茶店を活用し馴染みの店になるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	・本人やご家族の希望があれば付き添い受診している。 ・入居時、希望を確認している。	複数の医療機関と連携しており、医療面での柔軟な対応が可能な体制がとられている。受診の際には職員が同行するようにしており、医師、看護師との連携が行われている。また、ホームに看護職員が勤務しており、日常的な健康チェック等が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	・変化や異常がある時は管理者に報告し、看護師とも情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・入院時は医療機関に対して情報提供書を提供している。 ・病院関係者と家族との話し合いには同席し、状態について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	・終末期の希望は入居時より本人やご家族と話し合い その時々で変更を行い書類を作成し理解を得ている。 ・ターミナルにおいては、全スタッフが取り組み共有している。	利用者の看取りを見据えた対応にも取り組んでおり、協力医とも連携を深めながら、複数の方の看取り支援が行われている。また、利用者にも考えてもらうように働きかけが行われており、利用者本人の意向を大切にしたい支援にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	・急変時の対応についてマニュアルがあり、24時間 管理者より指示を受けることができる。 ・毎年、学区の消防団に協力してもらい 救急救命、AEDの講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	・定期的の避難訓練を実施している。 ・避難場所がわかるように 目につく所に掲示してある。	年2回の避難訓練の際には、夜間を想定した訓練を行いながら、3名の夜勤職員の連携に取り組んでいる。地域の消防団とは非常災害に関する協力関係が築かれており、運営推進会議等での話し合いが行われている。また、備蓄品の確保にも取り組んでいる。	水害が想定される地域でもあるため、水害を想定した訓練にも期待したい。また、水害を想定しながら、現状の備蓄品の保管場所の検討にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	・ミーティングや連絡帳で対応や声掛けについて話し合い、注意するよう心がけている。	職員が利用者の人格を尊重しながら、言葉遣いや対応等について振り返りができるように、独自にセルフチェックの取り組みが行われている。また、接遇に関する外部研修に参加した職員による報告の勉強会の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	・傾聴、受容、共感を基本とし利用者の希望や要望に応えられるよう自己決定に努めている。 ・自己決定の難しい利用者に対しては表情や仕草で把握するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	・食事、入浴等 利用者の希望時に対応できるように支援している。 ・外出や買い物等の希望にも出来る限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	・定期的に訪問美容を利用し、希望に応じて行なう。 ・スタッフがカットや毛染めを行なう事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	・下ごしらえや調理を一緒に行なう事がある。 ・利用者の状態に合わせた食事形態に対応したり、好き嫌いを考慮し別メニューの対応もできる範囲で行なう。	食事作りに関しては、ユニットで連携しながら行われており、利用者も出来ることに参加した取り組みが行われている。季節等に合わせた行事食みや身体状態に合わせた食事形態の提供も行われている。また、食事の際には職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	・水分、食事量のチェックを一日通して記入し 摂取量を把握している。 ・水分不足になりやすい利用者には、好みの飲み物を提供し摂取量を意識している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	・スタッフが声掛けをし、口腔ケアを促している ・訪問歯科、歯科衛生士が毎週入り個々のケアもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	・チェック表へ記入することにより、一人ひとりの排泄パターンを把握し その都度声掛けや介助を行っている。	利用者全員の排泄状態の記録を残しており、職員間での検討を重ねながら、その方に合わせた排泄支援に取り組んでいる。トイレでの排泄が継続できるようにポータブルトイレの活用も行われている。また、排泄に関する医療面での支援も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	・散歩や適度な運動を行っている。 ・排便状況を把握し 食べ物で工夫したり場合によっては薬の服用も行なう。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	・入浴の拒否のある方には、無理強いせず声掛けのタイミングや何故拒否があるのかを考え 気持ちよく入浴して頂ける配慮をしている。	週3回の入浴が行われているが、利用者の状況に合わせた柔軟な対応も行われている。重度の方についても可能な限り浴槽での入浴ができるように支援が行われている。季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯等の他、入浴がない日には足浴が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	・日中の過ごし方も安眠に繋がるとかかんがえ安心して生活を送って頂けるよう努めている。 ・入床時間は個々のリズムに合わせ、生活のリズムが作れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	・個々の記録に処方箋を添付している。 ・薬の飲み忘れや誤薬が起きないよう、常に注意を払っている。 ・薬の変更があった場合は、連絡ノートに記入し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	・ホームの中で出来ることは 役割として習慣づけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	・天気の良い日は散歩や喫茶店へ出かけ習慣としている。 ・希望があれば買い物や外食等の対応もする。	日常的にはホーム近隣の公園に散歩に出る等、日常的に外出する機会をつくっている。季節に合わせた花見や地域の行事への参加の他にも、市外に出かける外出行事の取り組みも行われている。また、少人数での喫茶等の外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	・ご家族に理解して頂き、利用者によっては一部自己にて管理していることもある。・基本施設での管理となっているが、いつでも自由に使える支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	・電話の希望があればいつでもかけられるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・定期的に飾りを変え季節の変化を感じられるようにしている。 ・和室やソファでくつろげるスペースを確保している。	リビングはホーム建物の2階から4階にあることで採光に優れており、利用者は日中を明るい雰囲気でも過ごしている。また、季節に合わせた掲示物が行われており、季節感にも配慮している。また、畳コーナーがあり、利用者の寛ぎの場にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	・廊下の奥や玄関にもソファを置き、一人になれる時間や数人で過ごせるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	・利用者の使い慣れた物、思い出深い物など部屋においている。 ・部屋を畳にすることで、自宅にいた時のように寛いでもらう。	利用者、家族の意向にも合わせながら、使い慣れた家具類の持ち込みや家族との写真が飾られており、一人ひとりに個性にある居室づくりが行われている。また、複数の方が畳マットを敷いて布団で生活しており、在宅からの生活の延長にも取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	・室内に放尿のある方には適切な場所にポータブルを置いて様子見し自分でできる支援をする。 ・転倒のリスクが高い方には、柔らかいソファを必要な位置に置いたりペットや家具の位置も検討する。		